

活力ある地域社会を創る 女性リーダーの養成

～西宮市・同窓会・NPO法人と連携した実践的人づくり～



Project 1



「親子で収穫体験♪」



Project 2



「自然と考えよう!
～ふれて、遊んで、泊まって、学んで～」



Project 3

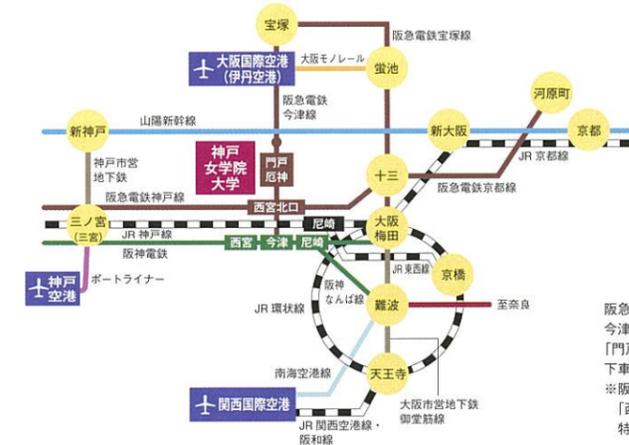
「わくわく!ぶんぶん!
はちみつ採集」



- ❁ 地域社会のリーダーとなり、いきいきと輝く女性を目指して。
- ❁ 地域活性化論
- ❁ NPOマネジメント論
- ❁ 平成21年度 総合実習紹介
- ❁ プレゼンテーション演習

神戸女学院大学 人間科学部

Access



阪急電鉄神戸線「西宮北口」で
今津線宝塚行に乗り換え
「門戸厄神(もんどやくじん)」
下車徒歩約10分。
※阪急「梅田」「三宮」から
「西宮北口」までの所要時間は
特急で約15分。

神戸女学院大学

*連絡先 〒662-8505 兵庫県西宮市岡田山 4-1
神戸女学院大学 人間科学部 GP 推進室 TEL/FAX 0798-51-8591
*E-mail jinkagp@mail.kobe-c.ac.jp *HP <http://humangp.kobe-c.ac.jp/>



地域活性化論

現場の生の声を聞き、考え、
3年次の総合実習へのステップに。



▲西宮市職員を講師に招いた講義・ワークショップ

現代GPプログラムに取り組むには、まず「地域活性化論」で自分たちの住む地域が抱える問題を知る必要があります。地域の現場ではさまざまな

問題がからみ合っています。それらを複眼的な視点から学び、3年生の「地域活性化総合実習」での体験学習プログラムイベントを企画するための基礎として活かしてもらおうことがこの科目の狙いです。
講義は毎回、行政、めぐみ会、NPO法人、企業などさまざまな組織の中で地域の活動を推進されている方を講師として招き、活動内容、現場の課題、市民活動の難しさや楽しさなどを語ってもらいます。例えば、西宮市役所環境都市推進グループには西宮市の環境学習活動の取り組みを、めぐみ会には同窓会組織を超えた公益法人としての歴史や活動を紹介してもらっています。現場の声から生きた知識を学びとり、同時に講師の方々の生き方も学んでもらいたいと考えています。

NPOマネジメント論

NPO法人の意義や実情を理解し、
自分が地域とどう関わるべきかを考察。



▲JICA研修員との交流

これまで地域の諸課題は行政が中心となつて解決してきましたが、社会や住民のニーズが多様化して行政だけでは対応できなくなり、「新たな公」として特定非営利活動団体（NPO）が注目されています。今後は地域社会で活動を行うには、行政や既存の地域

団体との連携だけでなく、NPOの役割や活用方法について理解する必要があります。授業では、西宮市で活動する「NPO法人（LEAF）」から環境活動支援協会（LEAF）から非常勤講師を招き、立ち上げから今日までの経過や組織運営、財産管理などを紹介します。そして、社会的な活動を行って給料を得るという職場としてのNPO法人の実情への理解を深めたいと考えています。その他、NPO法人の現状や課題に関する講義を基本としつつ、グループワークも実施していきます。
学生が今後、他者と関わりながら自分の考えを持って社会と向き合えるようになること、また「どのような生き方をしたいのか」を考える機会となることを願っています。

現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）

社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学などから応募された取組の中から、特に優れた教育プロジェクトを選定し、文部科学省が財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするもの。

人間科学部教員（カッコ内は教育・研究分野）
平成21年4月現在

- 〈心理・行動科学科〉
出口 弘 教授（マルチメディア）／石谷 真一 教授（発達臨床心理学）
小林 哲郎 教授（学校臨床心理学）／國吉 知子 教授（家族臨床心理学）
水田 一郎 教授（精神医学）／森永 康子 教授（生涯発達心理学）
山 祐嗣 教授（認知心理学）／山口 素子 教授（深層心理学）
小林 知博 准教授（社会心理学）／三浦 欽也 准教授（認知情報処理）
水本 誠一 准教授（地域健康学）／田島 孝一 准教授（音楽文化）
奥田 紗史美 専任講師（心身臨床心理学）
- 〈環境・バイオサイエンス学科〉
遠藤 知二 教授（動物生態学）／張野 宏也 教授（生態毒性学）
中川 徹夫 教授（科学教育）／西田 昌司 教授（健康医学）
野崎 玲児 教授（植物生態学）／塩見 尚史 教授（応用生命科学）
寺嶋 正明 教授（食品分子機能科学）／山本 義和 教授（水圏環境科学）
三宅 志穂 准教授（環境社会学）／高岡 素子 准教授（食品基礎科学）

受講の流れ 2年生後期から始まり、必修科目の10単位を含む24単位以上を取得すると修了証が交付されます。

2年生
地域の現状と問題点を知りイベント運営の基礎を学ぶ
地域活性化活動の現状と問題点を知るため、「地域活性化論」では行政・企業などの方を招いて活動状況を学び、現場見学などを実施。「NPOマネジメント論」では、NPO法人の仕組みや運営方法を学びます。

3年生
学生自らがイベントを企画・運営
市や支援団体と連携し、地域活性化総合実習に取り組みます。企画や連携先との打ち合わせを学生自身が行い、イベントを実施。通年の教育活動として講義時間にとらわれず展開します。

4年生
活動成果を市民セミナーで発表
自らの活動に対する理解をさらに深め、西宮市大学交流センターで市民に向けて成果発表を行います。また4年次ではステューデントアシスタントとしても活躍し、2、3年生の後輩へアドバイスを行います。

地域社会のリーダーとなり、
いきいきと輝く女性を目指して。

地域が抱える問題と積極的に
関わる人材を育てたい。

2つの学科で培った西宮市との
連携を学部単位の活動へ。

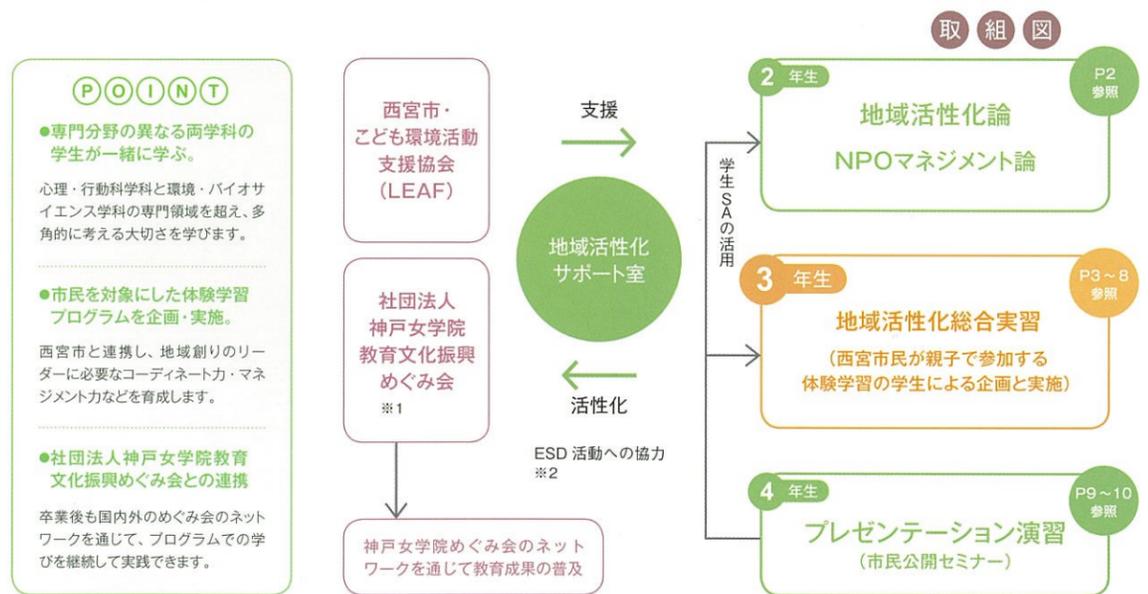
各地の地域社会は自然環境保全、子育て支援、食の安全、病人・老人介護など、さまざまな問題を抱えています。今、これらの解決のために、地域創りを推進する専門知識とスキルを持ち合わせたリーダーが強く求められています。

人間科学部では95年の阪神・淡路大震災後の復興事業に協力して以来、「しのみやパートナーシップ」に認定され、西宮市と緊密な関係を培ってきました。学科単位で行っていたそれらの活動を、学部単位の発展させて誕生したのが、現代GP「活力ある地域社会を創る女性リーダーの養成」です。

実践的な学習を通して、
社会で必要な力を育む。

3年次には地域社会に向けたイベントを学生自身が企画・運営。ときには西宮市や支援団体と連携しながら実施します。地域に根ざした課題を見つけ、幅広い視野から問題解決を考える能力、多くの人と協働して取り組む能力、地域のリーダー的役割を果たす能力を実践的学習を通して育成することが狙いです。受講生には、まず社会で必要とされる能力を身につけてほしいと思います。そのうえで、地域や社会のリーダーとして活躍してくれる女性が1人でも多く誕生することを期待しています。

西宮市・NPO法人・めぐみ会と連携した取組 —地域創りリーダー養成コース—



学生が自ら企画し、
運営する総合実習。

※1 社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会…1892年設立の同窓会をもとに、2000年に社団法人として設立。キリスト教の教えに基づき、日本各地で教育振興、生涯教育、社会貢献を行う。
※2 ESD…「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development)」

Project no.1 親子で収穫体験

全3回+1回で野菜を育てて収穫へ！
現代の子どもたちに野菜本来の姿を知ってもらおう！



プロジェクトリーダー
人間科学部
環境・バイオサイエンス学科3年生
岩崎 有美さん



DATA

- ・実施日 2009.09.05 / 09.23 / 10.31 / 12.05
- ・実施場所 甲山農地 (兵庫県西宮市) 神戸女学院大学 (ケンウッド館)
- ・参加人数 10家族36名 (子ども16名、大人20名)
- ・企画・活動期間 2009.04～2009.12
- ・学生メンバー数 9名
- ・協力先 NPO法人こども環境活動支援協会 (LEAF)

STAFF

(学生) 岩崎 有美 / 青山 恵 / 岡本 真奈 / 砂川 絢香 / 上山 祐佳 / 山口 友理 / 山本 文子 / 八束 絵美 / 養田 唯
(こども環境活動支援協会 (LEAF)) 久世 竜さん / 農地ボランティアの方々
(学生SA) 小西 くみこ / 友田 麻子 / 植田 久珠子 / 山口 真里奈

第1回 2009年9月5日 (土)

内容：夏野菜の収穫
冬野菜の種まき
夏野菜のレクチャー&クイズ
料理レクチャー&試食
参加人数：10家族31名
(子ども15名、大人16名)

子ども同士がすくなくよしに！ 和気あいあいとした雰囲気で行進。

私たちが事前に植えていた夏野菜の収穫と冬野菜の種まきをし、レクチャーやクイズで知識も深めてもらいました。採れたてナスの田楽の試食も好評。あまりの暑さにビニルハウス内でのクイズは、安全性を考えて場所移動。それ以外はすべて予定通りにいき、リハーサルの大切さを実感しました。



収穫したナスはこのあとすぐに田楽に！



「野菜の育ち方クイズ！わかるかな？」

第3回 2009年10月31日 (土)

内容：脱穀
冬野菜の収穫、芋掘り
野菜の旬のレクチャー&クイズ
料理レクチャー&試食
参加人数：10家族33名
(子ども15名、大人18名)

前より野菜が好きになったよ！ 子どもたちの笑顔に成功を実感。

最終日ということで午後まで活動し、第1回に種まきをした冬野菜の収穫、第2回に刈って干した稲の脱穀・精米、そして芋掘りを体験。精米したもち米と農地で採れた野菜をたっぷり使った豚もち汁は最高でした。作物の成長を肌で感じて、感動的な1日に。参加者から感謝の言葉をいただいて、思わず涙するメンバーも。



葉っぱや大根、にんじんも
全て自分たちで作った
ものを使いました。



楽しいクイズ形式で
旬の野菜を紹介。



5月末に夏野菜の種まきをスタート。

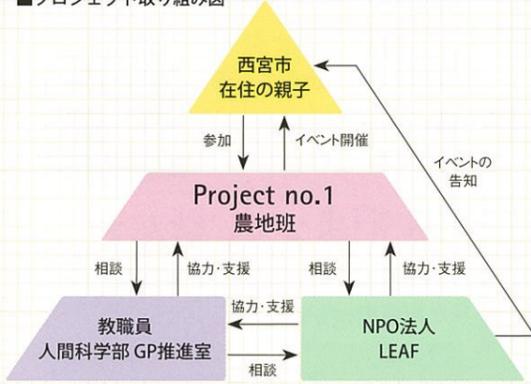


特に細かくチェックし合ったレクチャーの練習。



タイムスケジュールも
万全に準備。

プロジェクト取り組み図



このような成功が遂げられたのは、教職員の皆さん、LEAFの方々の支えと協力があったからこそ。そして、チームワークの賜だと思えます。思っていることを発信する大切さを知り、たくさん話し合っ、信頼できる仲間になれたことが私への最高の贈り物でした。

第2回 2009年9月23日 (水・祝)

内容：もち米の稲刈り・稲干し
冬野菜の観察
米作りのレクチャー&クイズ
料理レクチャー&試食
参加人数：10家族33名
(子ども16名、大人17名)

日本人の主食、米について学習。 稲刈りや冬野菜の観察が興味を後押し。

危険なカマを使つての稲刈りを、子どもだけ、大人だけに分けて体験。子どもたちは注意事項をしっかり守り、真剣そのもの。米への興味をただでなく、親の手を借りずにやりとげたことが自信にもつながったようです。無農薬でしか食べられない芋のつるの試食には、多数の驚きの声。



安全第一！子どもたちも一所懸命です。



2回目だけにクイズはハキハキと進行。



毎回手作りしたレクチャー資料。



LEAFスタッフと大学生、参加者の世代を越えた交流に。



たくさんとれたよ。

参加者の声

- *ただ収穫するだけでなく、クイズ等楽しく勉強できよかったです。
- *ナスが食べられない娘に自分の経験を話して励ましてくださり、一口だけ食べることができ、嬉しかったです。
- *日常食べているお米の成り立ち、食べられるまでの大変さを学び、改めて食物の大切さを実感。
- *普段なら触れることのできないことばかりで、本当に感謝。
- *学生の皆さんも楽しそうに積極的に参加されていました。「女性リーダー」を意識した行動がとれていたと思います。
- *野菜の栄養や旬などが話題にのぼるようになり、以前より身近に感じてくれるようです。

イベントを振り返って

- 一人ひとりが動かなければイベントはできないと学びました。「誰かがやってくれる」「リーダーに頼めばいい」といった「誰か」頼みでは9人の力は発揮できませんでした。
- やる前から無理だと決めつけず、未知なことにもチャレンジする勇気を持ってました。
- マイペースで視野も狭かった私が、メンバーからのアドバイスでいろいろなことに気づいたり、人と何かをする協調性が養われたことが大きいです。



フォローアップ 2009年12月5日 (土)

参加人数：7家族22名 (子ども11名、大人11名)

まだ終わらせたくない！ 女学院に招いて再会のひととき。

イベント後の子どもたちの変化や、第3回で配った種の成長具合を知りたい、逆に農地のその後を知ってほしいと思い、急遽、交流会の開催を決定。神戸女学院の自然と歴史を感じる学内ツアーと、農地の野菜を使ったケーキを食べながらの近況報告を楽しみました。子どもたちの絵日記と写真をまとめたアルバムもプレゼント。



「種まきしたにんじん、大きくなったよ」

葉っぱや大根、にんじんも
全て自分たちで作った
ものを使いました。



ご飯を残すなんてもったいない! ドギーバッグも使って食糧問題を学習。

2日目の午前中は食糧問題のレクチャー。資料では数字だけでなく身近なものに例えてイメージしやすくしたり、ドギーバッグの組み立て競争をしたり、興味を引くための工夫をしました。子どもたちの表情を見ながら説明のやり直しもしたので、理解してもらえたと思います。ただ、予想以上に時間がかかり、クイズができなくなってしまったのが反省点です。



宿泊2日目 2009年9月22日(火・祝)

内容: 食糧問題についてのレクチャー、川遊び



「洗ってまた使えるって便利だね」

完成!

レストラン等で食べきれなかった食事を持ち帰るために作られたドギーバッグ。

元気いっぱい川遊び! たくさん学んだ時間がいよいよ終わりに。

西宮にきれいな川があることを知ることで、自然を大切に心が芽生えてほしいと思い、仁川上流で川遊びをしました。最後に、画用紙に2日間のまとめを自由に書いてもらい、バスで移動解散。子どもたちだけでなく、私たちにとっても勉強となった2日間でした。



予想できない子どもの動きは見守るのも大変!



フォローアップ 2009年9月~12月



イベント前から計画していたアルバムをクリスマスプレゼントに。

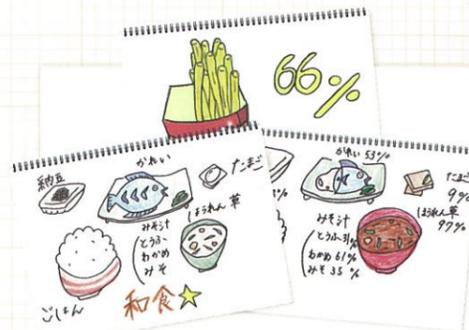
イベント中はメンバー全員デジカメ持参で自分の班の子を中心に撮影。参加者一人ひとりのアルバムを作り、私たちからのメッセージと最終日に書いてもらった画用紙も一緒にまとめて、クリスマスに贈りました。

イベントを振り返って

- 固定観念や先入観にとらわれることなく、柔軟に、臨機応変に行動する術が身についたような気がします。
- 役割分担をきちんと責任を持って行動すること、コミュニケーションをとることの大切さに気づきました。
- イベントは子どもたち同士の出会いの場となり、私たちの成長の場となることを実感。人とのつながりがイベントを通して広がっていったと思います。

参加者の声

- * 牧場に行って牛も人間と同じ命なんだとわかりました。本当に良かったです。
- * 私たち人間は生き物の命をいただいていることを勉強して、私たちはとも感謝しなければいけないと思いました。
- * アイスクリームを作った楽しかったしおいしかった。寝る場所はホテルみたいですごかったです。楽しかった。



実は5回も作り直したレクチャー資料。



実際に現地でリハーサルを実施。

企画~準備 2009年4月~9月

どうしても宿泊イベントがしたい!
調べて、考えて、先生方を説得。

命と食について、自然の中で考えてもらうために宿泊しようとするも、先生方から多くの指摘が。安全の確保や非常時の対策などについて話し合いを重ね、なんとか実現できました。6月下旬からは夏休み中も週2回程度集まり、下見、リハーサル、レクチャーのまとめなどの準備を。LEAFの協力を得て西宮市の小学校へ広報しました。



宿泊1日目 2009年9月21日(月・祝)

内容: 動物とのふれあい、牛の生態の学習、アイスクリーム作り体験、食についてのレクチャー、ゲーム大会

牛がいるからアイスクリームができる! 六甲山牧場で楽しくリアルに学習。

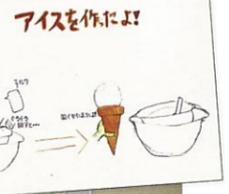
集合場所からまずバスで六甲山牧場へ。渋滞につかまったものの昼食時間で臨機応変に調整。動物たちとふれあい、獣医の久米先生から牛の生態について教えていただきました。その後の牛乳を使ってのアイスクリーム作りに子どもたちの目はキラキラ。牛のおかげで、こんなにおいしいものが食べられるんだということを学びました。



本物の牛は迫力満点! 対面しながらリアルに勉強。



アイスクリームは牛の恵みからできたもの...を実感。



「牛さんがくれた牛乳、大事に使おうね!」



うまっ バスで自然の家へ

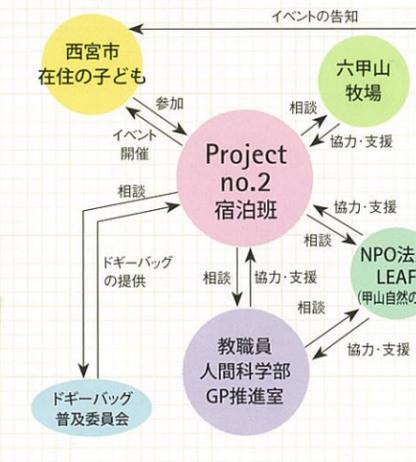
食べ物があるのは当たり前じゃない。 命の大切さを伝えたレクチャー。

夕方、宿泊地の甲山自然の家に到着。子どもたちは元気で大騒ぎでしたが、レクチャーの時間は真面目に。食べる時は命をいただいていることであると伝えたかったのですが、命の犠牲という残酷な内容にならないようにまとめるのは大変難しかったです。



食生活の変化や自給率を伝えました。

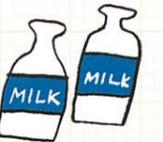
プロジェクト取り組み図



は川遊びを計画。遊びを通して、自然を大切にしようという思いを育んでもらうのが狙いです。子どもたちは勉強の時間も遊びの時間も生き生きと過ごしてくれ、手応えを感じました。このイベントを通して、柔軟で広い視野で調査・考察・計画をする重要性や、協力先の方々のありがたさを痛感しました。また、リーダーとなったことで責任感が生まれたと同時に、自分の班だけでなく自分だけの班じゃない、だからみんなでがんばろうと考えられるようになったのは大きな成長です。



プロジェクトリーダー
人間科学部
環境・バイオサイエンス学科 3年生
萩原 淳さん



Project no.3 わくわく!ぶんぶん! はちみつ採集

自分ではちみつを採集して、ミツバチのことをたくさん知ろう! 子どもたちが「自然と人の在り方」に興味を持つきっかけになりますように。

DATA

- ・実施日 2009.08.03
- ・実施場所 神戸学院大学理学館 (S-34、屋上)
- ・参加人数 10名 (小学5～6年生の児童とその保護者5組)
- ・企画・活動期間 2009.04～2009.12
- ・学生メンバー数 6名
- ・協力先 NPO法人こども環境活動支援協会 (LEAF)

STAFF

(学生) 山崎 慧/北川 真理子/森本 静/西條 衣美/山本 佳奈/山崎 有美子
(学生SA) 小西 くみこ/友田 麻子/植田 久珠子/山口 真里奈



プロジェクトリーダー
人間科学部
環境・バイオサイエンス学科 3年生
山崎 慧さん



現代の子どもたちは自然と触れ合う場所も機会も少なくなっています。そこで私たちは、親子で自然を感じ、興味を持ってほしいと考え、神戸学院大学で飼育しているミツバチのはちみつ採集を企画。採集体験をしながら、ミツバチ一匹が生に作れるはちみつの量はスプーン1杯ほどしかないということも知ってもらい、自然の恵みに感謝できるようにしてほしいという願いも込めました。

イベント当日はハチの習性と熱射病の危険に配慮し、午前中は2班に分けて進行。はちみつ採集・巣箱の観察と、はちみつを

入れるビンラベル作りとを交代で行い、午後は両班共にミツバチのレクチャー、はちみつ比べ、はちみつビン詰め作業などを行いました。子どもたちからもどんどん質問が出て、レクチャーの時間も真剣な眼差し。後日、「僕は学校でハチ博士なんだ」と嬉しそうなお手紙も届き、子どもたちの心に何か大切なものを届けられたのではないかなと思っています。

今回のイベントは、ミツバチを飼育管理されている教授、健康医学の教授、保健室の先生などのご指導・ご協力をいただくことで、事故のない安全な運営が成し遂げられました。募集の際はLEAFの方にもお世話になりました。たった1日のイベントにも多くの力が必要であることが、地域活性化につながる規模の大きなイベントを行い、たいという意欲も生まれ、大変有意義な経験となりました。

企画～準備 2009年4月～8月

はじめは企画に難航し、妥協案も。最終的には全員一致で「これしかない!」

神戸学院を自然を考えるきっかけの場にしたいという思いとイベント内容がうまくマッチせず、浮かぶのはありきたりな案ばかり。ところが5月末にはちみつ採集ができると知り、一気に企画がまとまりました。ミツバチの習性や採集方法を勉強し、採集練習も3回実施。7月にはLEAFさんのご協力を得て参加者の募集も開始。



参加者役と学生役に分かれて本番さながらにリハーサル。

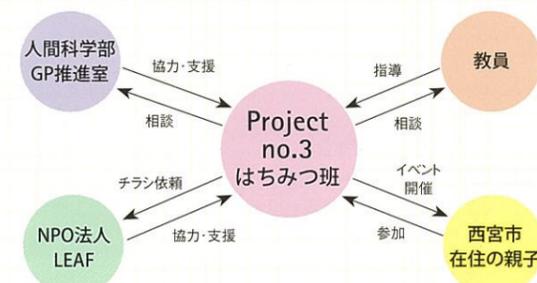


練習では採集手順をひとつひとつチェック!



当日配布する絵本や5分刻みのスケジュールで準備万端!

プロジェクト取り組み図



はちみつ採集体験

2009年8月3日 (月)
9:00～12:30

内容: 採集方法などのレクチャー、面布の着方の練習、はちみつ採集、巣箱・女王蜂の観察、はちみつビンのラベル作り



ミツバチの多さにびっくりの子どもたち。質問や意見が活発に出て、大成功!!

わくわく班とぶんぶん班に分かれ、屋上と教室での作業を交代で進行。屋上でははちみつ採集にトライ。親子で鋭い蜜刀を慎重に使用して蜜ぶたをはずし、はちみつを採集しました。その後、巣箱を観察したり、女王バチ探しをしたり。子どもたちからは好奇心いっぱいの質問がたくさん飛び出しました。教室でははちみつを詰めるビンに貼るラベル作りを。個性豊かなラベルに感心。



色とりどりのラベルが完成!



リハーサル通りスムーズに進行。



巣箱から取り出して緊張が高まる一瞬。

ミツバチがぎゅーしてびっくり!

フォローアップ 2009年8月～12月

貴重な体験をよい思い出に。そして自然への感謝を忘れないように。

採集体験の思い出を形に残してあげたいと、後日、手作りのアルバムを郵送。自然への興味や感謝の気持ちを忘れないでという思いから、イベント当日の写真だけでなく、はちみつを使ったレシピ、現在のミツバチの状況、ミツバチの豆知識を1冊にまとめました。心あたたまるお返事もいただけ、やり遂げた充実感に満たされました。



午後は疲れて眠くなる?の予想に反し、レクチャーにも興味津々。

子どもたちはミツバチへの興味がかなりわいたようで、レクチャーやクイズにも真剣に参加してくれました。女学院でとれた年代別、時期別、養蜂場別のはちみつの試食も、味や香りの違いに気づいて大盛り上がり!最後に、採集したはちみつをビンに詰めて終了。自分だけのはちみつに満面の笑顔を浮かべる子どもたちが印象的でした。



ミツバチの奥深い世界をご紹介します。



食べ比べると甘さの違いがはつきり!

「自分だけのはちみつができました!」

参加者の声

(子ども編)
*最初はとてこわかったけど、ずっと見ていると慣れてきました。女王バチが見られてよかったです。
*すごく楽しかったです。ハチさんはとても働かなくていい。見つけた女王バチがたまごを産んでいました。1日に100個以上産むなんて知りませんでした。ほくもハチさんみたいに、いっぱい働きたいです!

(大人編)
*西宮の知らなかった場所を知り、久しぶりに時間の流れが心地よく、親子ですべて満足しています。
*資料などのプリントが子どもにわかりやすく、とても興味が持てました。帰宅後も家族に体験してきたことを上手に話しています。
*試食で丁寧な学生さんの対応に感動しました。この養蜂が軌道に乗り、学校や地域でも実践研究が進めば、なお教育効果が得られると思います。

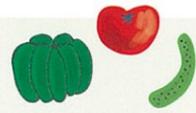
イベントを振り返って

- 1つの企画を実現する大変さを実感。さまざまな事態を想定して準備する重要性も知りました。
- メンバー全員が何をしているかを把握して、進行具合や負担のバランスをとれるようになりました。
- 当たり前と思っていたことが小学生にはわからなかったり、その逆もあったり。参加者の立場に立って、その目線で考えることの大切さを学びました。



人間科学部
心理・行動科学科 4年生
瀬尾 真磨 さん

プレゼンテーション演習では、1年間かけて行った実習をほんの数分にまとめあげないといけないことが最も難しかったです。考えや思いを「形」にするのは大変難しく、また形になったものを関係者全員で「共有、共感」する重要性を痛感しました。思いをうまく形にして他者に伝えることこそ、コミュニケーションの原点です。私たちはその方法をイベントとこの演習で訓練してきました。意見の口頭発表、人との協調、情報の共有の重要性を学んだことは、社会に出てから大きな力になるはずですよ。



平成20年度 プロジェクト

親子で作ろうベジタブル!

イベント概要

野菜を育てて食物の自然な姿や尊さを知る、全4回の農作業イベント。共同での農作業を通して、他人との関わりや親子の絆が深まることも重視。



【発表内容】
イベント概要、リアル体験談、まとめの3つで構成。リアル体験談ではチームのメンバーがイベント時のおそろいのピンクTシャツを着て劇を披露。
【発表のポイント】
3グループのうち最後の発表だったため、淡々とした発表の仕方では心に残らないのではないかと考え、リアル体験談の中で劇を実施。インパクトを与えると同時に、イベントの大変さ、難しさ、喜び、11人の絆など私たちの思いをたくさん伝えるのに有効な手段でした。

平成21年度 プレゼンテーション演習

地域活性化総合実習を振り返り、発表することで、自分にとっての意味・意義を探る。

DATA

・実施日 2009.07.18
・実施場所 西宮市大学交流センター



▲活動報告会

▲個人プレゼン発表会(学内)

▲授業

自分の考えを伝える手法を
実践的に学んでほしい。
その思いに応える、個性的な
プレゼンテーションが実現。

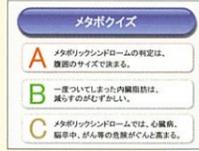
3年生で履修した「地域活性化総合実習」の内容を振り返り、自分にとってどのような意味を持つのかを考えさせることを目的として、この科目を設置しました。そのために、他人に自らの経験を説明するという方法をとることに決定。広告プランニングを主業務とする株式会社オレンジフリーの吉田とも社長、蒲原久美氏をゲスト講師として迎え、プレゼンテーション作成の実践的指導を受けました。授業では、「地域活性化総合実習」での個人的な体験を後輩の3年生に伝え、アドバイスとなるようなプレゼンテーションを作成すること、西宮市民を対象にした公開セミナーで「地域活性化総合実習」の意味、自分たちの経験を発表することを課題にしました。この講義を通じて、自分の考えを広く伝えるためには、発表内容を深く掘り下げ、十分に吟味しなければならぬことを実践的に学んでほしいと思います。

平成20年度 プロジェクト

早めのメタボ 予防大作戦!!

イベント概要

食事・運動・生活面で家族の健康を守る女性にエールを送る、メタボ予防イベント。基礎知識の講義とトランポ・ロピクス運動の全2回開催。



【発表内容】
メタボリックシンドロームについてクイズを盛り込んで説明し、イベント内容、実際のお便りを元にした感想を披露。3名が舞台で説明。
【発表のポイント】
メタボの説明は理論的な説明が得意な人、心のこもった体験の感想を述べるのはそういうことが得意な人というように、発表者の性格にあった内容を発表した点がポイントです。適材適所に、聴く人に感動を与えるような内容を心がけました。



人間科学部
心理・行動科学科 4年生
塩見 嘉奈子 さん

自分が何を伝えたいのかを考え、パワーポイントという目に見える形にする作業は大変でした。この演習を通して、普段、自分の感情や思考など、形のないものを形にする作業を意識的に行っていないことを知り、どうすればよいのかを学ぶことができました。プレゼンテーションとは特に難しい問題ではなく、日常的に自分が誰かに何かを説明するときには必ず必要なことだと今は理解しています。相手にわかりやすく伝えられるように、日頃からの考えや行動、発言しようと思うようになったことは大きな収穫です。



平成20年度 プロジェクト

みんなで eco クッキング!

イベント概要

地元の畑で育てられた野菜を収穫して調理する、「地産地消」実践イベント。子どもたちが地域との繋がりを感じ、環境問題を考えるきっかけを提供。



【発表内容】
イベント概要、イベントまでの道のり、この企画にした目的や思い、そして参加者の方々と後輩へのエールを発表。イベント中に撮影したビデオも上映。
【発表のポイント】
イベントの参加者、イベントの報告を聞いた方、そして後輩の心に何か芽生えてほしいかっただけ、パトントッチといったニュアンスを含めて発表しました。またビデオ上映によって、参加者の笑顔や私たちの奮闘ぶりが臨場感をもって伝えられ、楽しませることができたと思います。



人間科学部
環境・バイオサイエンス学科 4年生
いけもと なるみ さん
池本 成美 さん

自分の言いたいことは山ほどあるのに、スライド上にはすべて載せられません。そのため、何を文字にし、何を口で述べるかという選択に苦労していた私は、先生の見本プレゼンに強く引き込まれました。相手にいかに納得させ、夢中にさせるプレゼンをつくるには、たくさんの言葉選びとレイアウトの仕方があることを教えてもらいました。ただ思いを述べるだけでは相手に正確に伝わらず、心も動かさません。そのことを心にとめ、どうすればよいか頭の中で練り倒し、言葉選びをしていきたいと思います。



参加者アンケートより

●一人ひとりの学生さんにとって、とても学ぶことのできる活動だったことを改めて強く感じました。今後のご活躍を期待しています。
●イベントのコンセプトだけでなく、現代GPプログラムを通じて個人・グループで学び、考えたこともよく伝わってきました。
●今後とも、長い将来にわたって、真のリーダーとなるよう課題に取り組み続けてください。

協力者コメント



株式会社オレンジフリー
代表取締役
吉田 ともこ さん
広告戦略プランナー、広報コンサルタント、神戸女学院大学
非常勤講師
(2008 NIKKEI NET広告賞・
2008企業ウェブグランプリ)

学生の成長と発想がすばらしく、指導する側も触発されました。学生たちはプレゼンテーション演習を通して、自分たちの取り組みを客観的に捉え直すことができ、3年間の学習の集大成として大きな達成感を味わえたと思います。
個人プレゼンは「個性を引き出し、自信をつけるため」、チームプレゼンは「チームの強みを遺憾なく発揮する競争プレゼン」と捉えてアドバイス。翌年は社会人となる学生も多かったため、ビジネスの場でも役立つデジタルプレゼンのテクニックやシナリオの作り方を添削指導しました。その中で驚いたのは、短期間で学生たちが飛躍的に伸びたという事実。「型にはまりたくない」と、徹底討論して独創的な試みをしたチームもあり、非常に刺激されました。また、この3年間で「リーダー像は決して画一的ではない。自分の個性や能力を活かして、適材適所でリーダーとして活躍することが可能である」ということに多くの学生が気づいた点も、私は高く評価しています。